

舞鶴市市史編さん委員会考古・古代・中世部会第3回会議／議事要録

- 開催日時 令和7年12月10日（水）19時～20時10分
- 場 所 舞鶴市西総合会館市史編さん室（オンライン併用）
- 出席者 加藤部会長、廣瀬副部会長、石川委員、肥後委員、吉岡委員
（事務局）横川課長、神村担当課長、田中係長、石原

- 次 第
 - 1 開会
 - 2 協議事項
 - (1) テーマ・章立て等構成について
 - (2) 執筆者等について
 - (3) 今後の予定について
 - (4) その他
 - 3 連絡事項その他
 - 4 閉会

●概 要

協議事項(1)テーマ・章立て等構成について、(2)執筆者等について（資料2）

◇第1章：旧石器～古墳時代（No1～29）

〔廣瀬副部会長から資料説明〕 前回の専門部会での意見をふまえ、テーマなど整理、章立てしている。章立ては3章とし、それぞれの章に節を設けている。

その中で、第1章は考古で1つの章にし、旧石器時代は1つのテーマだけである。

4番と5番、18番は少なくとも4ページ分を必要とするのではないかと。26番は今年の新しい調査なので新規として入れた。また、27～29番については、前回4つあったものを整理し3つに分けた。これら章立て、節ごとのテーマ、並び方、執筆者などについて、ご意見をいただきたい。

（⇒特に異論なし。執筆、編集していく中で見直しはありうるが、この形でスタート。）

◇第2章：奈良～平安時代（No30～47）

〔廣瀬副部会長から資料説明〕 第2章は古代で、第1節が飛鳥・奈良時代、第2節が平安時代の2節編成としている。順番については、1つは歴史の順番、それからテーマの内容に基づいて、近接したテーマは1つにまとめた形にしている。38番の自然災害は飛鳥・奈良時代の最後に入れているが、古墳時代は第1章の方がよいかなどについてご意見をいただきたい。

（⇒特に異論なし。）

◇第3章：鎌倉～戦国時代（No48～85）

〔廣瀬副部会長から資料説明〕 第3章は中世で、第1節が鎌倉時代、第2節が南北町時代、第3節が室町時代、第4節が戦国時代としている。長いので、章を分けた方がいいのか。鎌倉仏教の展開というのが、3つテーマがあり曹洞宗は鎌倉時代に入れ、禅宗と時宗律宗は南北町時代に入れているがどうか、などご意見をいただきたい。

・時代順に並べているのが気になる。考古、古代、中世とくると、例えば古代の中でなんとなく時代がこれが早いとか真ん中とか遅いとかになってくる。もうひとつは、政治や経済、宗教や文化、交通や産業とか、時代時代の進歩、流れみたいなものもある。鎌倉時代の仏教という括りがあってもいいと思う。時代順の中でその時代でもう1つ何か括り方ができないか。

特に中世の場合、そんなに歴史的なテーマを色々展開できるような地域ではない。荘園とか戦乱とかがやたら出てくる。例えば戦乱だったら文字として書くことは、ある程度資料的にあるのでできるけれど、これを図版的なビジュアルな市史にした場合に全部古文書とかそういうものの資料を2点3点入れる、あるいはそのどこか地図を入れるとか、その戦乱をおこした人

の肖像画とかあればよいが、おそらく舞鶴にはない。そういうものを探してきて入れるにしても、いろんな戦乱を上げていると、説明や表、ページの構成の仕方が似たようなものになってきてしまうのではないか。考古の発掘現場などは資料が色々あり、地図などの展開ができるのでいろんな遺跡の説明ができるだろうが、中世あたりはあまり文字資料に依拠しすぎるようなテーマというのは同じようになってくるので気になる。全体的にこの表を見た印象である。

宗教については曹洞宗とか、禅宗で曹洞宗、臨済宗という分け方もあり、少し工夫はあってもいいのかと思う。ただ順番をどうするかとか、宗教という形でどこかにまとめる形もあるのかなと考える。

- ・戦乱の話はかなり多いので、絵資料、図資料というのは確かに入ってきづらく検討する必要があるかもしれない。石川先生が言われるのは、1つはその時代ごとの並びではなく分野ごとのまとまりを強くした方がいいんじゃないかということだと思う。

- ・時代順でよいが、時代順の中にいろんなテーマがあり、ページを開いたらまた次の違う話題が次々出てきて、時代の中でも政治的なことや文化的なこと、祭祀宗教的なことなど何かもう少しまとめるやり方ができないか。古代や考古時代は難しい気もするが、宗教や戦乱、政治状況、また村の暮らしみたいな形で荘園を入れるなど、そういうまとめ方がその時代の中でもあってもいいのではないかと考える。単純に時代順に配列するよりも時代の配列の仕方があってもよいのではないか。それは担当する先生が自分の分野をどういう括りにしたらいいのか、いついつ時代の前中後期で分け、それはあと事務局で並べ替えてくださいというより、もう少し有機的な繋がりで各分野書いていくことが考えられないか。

いろんな方がその書いた分野、部分をどうまとめるか。そこは事務局が1つの方針を立てないといけないと思うが、今の並び方を見てるとあれこれいろんな出し方をしているという意味である。

- ・書き始めて、すり合わせを当然すると思うが、刊行までにどれだけすり合わせするかで、石川先生がいわれたことの答えが出ると思う。多くは割と単純であり、例えば中世で何が書けるかというのは書き始めてみないと分からない部分はある。

- ・考古の方に文献にそういうことが入ってくることはまずない。そこである意味完結と言うか、書けると思う。古代、それから中世になってくると文化とか政治とか色んなことが入ってくるのでそこをどうするかということである。今決まらなくても、そういう考え方もあるという形でまとめておいてもらいたい。

- ・石川先生が言われていることは、項目が結構細かく分かれているが、それをもう少し大きなテーマでやったら、例えば宗教なら宗教という1つのテーマでやったらどうかということか。

- ・それも一つある。もう1つは単純に、考古、飛鳥奈良平安、鎌倉、南北朝室町というように今はなっている。あと古代とか中世とか時代の捉え方をどうするかというのは少し気になっており、1つは古代であるが平安時代という場合も前中後期があったり、そこに院政期が入り、それから鎌倉前中後期と年代が続く。さらに南北朝、室町前中後期とあり、時代のことを言う場合何世紀とか鎌倉の前期とかあるいは中世の前期とかいろんな言い方をするが、時代区分の説明はある程度整理して、鎌倉時代あるいは中世前期とか中世後期とか、場合によってはその捉え方があってもいいのかなと考える。鎌倉時代の政治はどうか、文化はどうかなどそれぞれ個別に出てくる形になるが、全体まとまった形での説明、例えば総論みたいのを作らないと、読んでみてそれぞれ単発にただ歴史的な事柄がありました、という風になってしまう気がする。そのため、古代、考古とかの歴史も含め、別途、最初に総論、概説みたいなページを置けば、例えば、テーマとして舞鶴市の古代編ではこういうことを特色としており、それを書いているという形になれば、書いてることの意味が分かると思う。

- ・石川先生の話は理解できる。やはり全体の総論が章の頭のところに4ページなりぶち抜きであってもよいのではないか。全体像が把握できるものがそこにあって、1つ1つの細かいところは見開きで見えていける形である。章か節なのかは別として、それがなくて確かに全体が見えて来ない気がする。

- ・各章の前に、章の概要をもう1ページ1000文字程度で入れられないかと考えていたが、節ご

とぐらいに入れる必要があるかもしれない。

・細かく入れていくより、古代、中世か、あるいは鎌倉時代とか室町時代とかである程度分けているので、時代の特色みたいなものを書いてよいのではないかなと思う。

・章単位ということか。

・章単位になるのか。そこで、冒頭に1、2ページぐらいで書く。歴史とか考古、民俗という分け方はしていないので、やはり時代の特色、舞鶴や加佐地区など入れて各時代の導きになるようなこと書いていけばよいと思う。

・節単位がよいと考える。例えば平安時代などは前中後期とか全体の流れが書ける。

・そこはお任せするが、ボリュームはある程度考えないといけない。

・確かにその章単位で書くとなると、考古で旧石器から古墳までをまとめて書くというのは無理がある。

・節でよいと考える。

・節単位に概要を入れて、その特徴を書く形にする。

・あとは原稿を書くなかで、組み合わせや順番、タイトルなどを見直す必要が出てくるかもしれない。

・節単位で扉みたいなのをつけていく。扉をつけるなら、本の体裁上半ページがいいかもしれない。半ページあって見開きが続いて最後のページをどうするかは別として、また扉をつける形の方が格好はつく。

・開いて左側のページに概要があり、開いたら右から始まるという形か。

・そういうイメージである。縦書きになるから、めくれるところに扉をつけ、扉がわりの解説があるという形である。だから、その説の最後の半ページを何使うか、使い勝手はまた違うかもしれないがコラムを入れるとか、そういう体裁は見やすいと思う。

・テーマ編成については、現段階では章立て節立てとしては一応この形とし、実際執筆していく中で、これは近接してる分野なのでもう1つのテーマにするなど出てくると思うので、そこは歩きながら考えていくというスタンスでよいかな。

(・各委員、異論なし)

・戦乱の時代は確かに文字ばかりになるので、これは改めて文字資料以外のものがあるかどうか考えて統合していく必要があるかもしれない。

●事務局／中世後期の村落についてひとつもないのに違和感がないか。

・舞鶴市として面白いテーマが出てくるところを全部入れていくとこうなる。実際に戦国時代は、応仁の乱以前と以後とそれからこの加佐郡、舞鶴あるいはこの若狭とかの関係で画期があるなら、そういう歴史的な画期をいくつかまとめて書かないといけない。その中でいろんな戦闘があり、資料がたくさんあるので面白く書ける部分がある。しかしそればかりあげていくと少し偏りすぎる感じはする。なので時代で分けて、絞り込んで項目を少し減らす形で書いてもいいのかなという感じがした。

同じことは荘園でも言える。志楽の荘というのはいろんなことが言え、そこは荘園ばかりになってしまうのでどういうテーマ性とするか、荘園はどうしても志楽になってしまうが、あまり同じところで固まると全体の市史という観点から言えば少し偏りすぎる部分もあるという感じがする。神村さんが荘園をされてるので、もう少し書いて欲しいと思っている。テーマとその中身を神村さんと私でもう一度絞り直して、分担を少し考え直してもいいかなと思っている。

●事務局／冒頭来、石川先生がコメントされているように、あまりにも個別テーマすぎるかなというところは今の章立てにはある。例えば57、58番は神社、鎮守の話が南北朝期に2つあったりして、おそらく一緒に節で書けるような部分がある。テーマなり切り口をもう少し整理した方がよいのかなと考える。

・前回、特に中世などテーマはともかく項目を上げるということでひたすらあげたが、精査が十分にはできていなかった。今回、これを改めて提示していただいて、その問題点が、中世あたりは特に出てきている感じがするので、今年度中ぐらいに整理し直したいと考える。

協議事項(3)今後の予定について（参考資料）

〔・事務局より次回会議の開催時期、刊行までの年度別の概略スケジュールについて説明〕

- ・考古・古代・中世編が第1巻目となる予定だったのか。

●事務局／計画では令和9年度に3巻を予定している。本部会の資料編のほか、文化遺産の地形地質編、分野編の引揚港編としている。

- ・備考欄のフォントや体裁、凡例などは市史全体の共通のものとして作るのか？それとも巻ごとにある程度独自性の部分で凡例を作るものとなるのか。

●事務局／台割りという形で、基本的には各巻共通の要素を決めていきたいと考えている。

- ・場合によっては巻ごとにし入れもありうるということで理解する。

- ・来年度、現地調査に行ったりすることが頻繁に出てくると思う。

また資料館などで文献調査もやらないと間に合わない。そうした場合、どういう形で報告すればよいのか。

●事務局／先生方が本市に調査で来られる場合は一報いただければ必要な対応をさせていただく。また、例えば京都市内で独自で調査される場合には、後で報告書を提出いただくことになるが、こちらも連絡いただいたら報償費の支払い含めて必要な対応をさせていただく。

- ・それはメールでよいのか。

●事務局／メールでよい。最終的に書類を提出していただく形になるが、それも事務局で調整させていただく。

- ・執筆者が並んでいるが、例えばどなたか適当な方がいれば下請けや孫請けに出すことは可能か。

●事務局／執筆者については、資料2に現在の候補者が記載されているが、現段階でも構わないし、実際に執筆作業に入られる中で、この方に書いていただいた方が良いというケースがあれば、ご連絡いただけたら対応させていただく。

- ・近世部会では、積極的に下請け等出している。

協議事項(4)その他（資料3）

〔・事務局より、見開き構成イメージについて説明…執筆要領を踏まえ整理。写真、図版活用しビジュアルで見やすいもの、見開き2ページで1テーマ、A4原則縦書き、原則2段組、フォントは10.5ポイント、文字数は見開き2ページで大体1300か1400字、原稿用紙で3枚半ぐらいの分量。本資料は今年6月の市史編さん委員会で提示、了解済。〕

- ・この版の大きさは、横幅、縦何cmか。

●事務局／余白までは詰め切れていない。他市のものも参考にし検討する。

- ・印刷は舞鶴の業者か。

●事務局／基本は市内業者になる。まず仕様書を作りそれに対応できるかどうか事前照会する。対応できるなら市内業者になるが、高度なものであるとか、分量的に期間内に難しいなどとなれば市外業者が候補になってくる。

・既刊市史は確かヨシダ印刷だったと思うが、要するにデザインが入るかどうかである。版刷りといって割り付けしたりするが、自分たちでやると素人的な割り付け感が残るので、やはりそういう割り付けデザインをある程度やってくれるところが出版社になると割り高にはなるが非常に小綺麗にできる。

●事務局／仕様書をどれだけしっかり作れるかがまず大切になってくるが、正直なところやはり大手業者の方が安心できる部分がある。そこは重要な要素になってくるので、契約担当との協議等も含めてしっかり検討していく。

・印刷して綺麗にっていうのは要するに色校正をきちんとやってくれるからである。京丹後市を見てると写真は色々出てても、手持ちの写真を地元の印刷屋に任せて色校正が濃かったり薄かったりということが結構あり、やはり図版としてちょっと見づらい部分がある。写真はいいものに越したことはない。手持ちのもので少しブレている場合は撮り直すとかして、いい写

真を入れないとせっかく良いものを作っても写真で損をすることがある。特にこういうビジュアル系のものを作るのでそこはお願いしたい。

●事務局／ずっと残っていくものになるのでしっかりしたものを作っていきたい。

・時代区分論というか、1人1人の時代感というのは違って、美術の方では鎌倉前期をどこまで言っているとか、中世前期というのはどこまでを言ってるかなど、そういうところをほうっておくと齟齬が出てくると思う。

文化庁の中で鎌倉時代前中後期とか院政期、それから平安時代全中後期って何年、大体政治的な動きであるが、文化財調査をする時に出てくる。人それぞれのイメージの問題もあるが、鎌倉時代前期はいつ頃で中期はいつ頃で、ある程度そこを明確にしておいた方がよいのかなと思う。

もうひとつは、美術史は最近院政期を入れるが、美術史における桃山時代は、江戸時代の、場合によったら寛永、慶長までは大体入る。歴史的には1603年で一応江戸時代にしてる。江戸の場合は、そこで齟齬が出てくる。桃山文化もしかり。ただ美術史と歴史というのはちょっと違うが、その辺のすり合わせ、共通化をしておいた方がよいと考える。

また、舞鶴という名称は地名的には近代。近世だと田辺で、中世だと加佐郡になる。加佐郡というと、有路、今の福知山部分も入り、そういう固有的な地名の言い方について、古代の中で加佐郡を舞鶴では、と書いていいのかどうか。加佐郡では、と統一するとか一定の方向性をつけないと人によってバラバラに書いてしまう。同じ事柄をさしても舞鶴の古代ではと言ったり、加佐郡の古代ではと言ったり、そういう可能性が出てくるので、絶対というわけではないがある程度統一性があつた方がよいと考える。前近代であれば加佐郡と言ったり田辺、近世はどう扱うか。少なくとも中世では田辺、全域になったら加佐郡という言い方がいいのかなと考える。

●事務局／執筆要領を事務局の方で作成するということで理解する。執筆依頼に当たって必須になる。今ここですぐ結論は出ないので、用字や用語、時代区分など、現在の要領を一度見直しはさせてもらう。

連絡事項その他

●事務局／協議いただいた内容については議事録としてまとめ、後日メールで各委員に送らせていただくのでご確認願いたい。また、次回会議は3月を予定したいと考えているがその調整を含めて、適宜、各委員と情報共有していきたいと考えているので引き続きよろしくお願いする。

閉会